

第4回辰野町部活動地域展開連絡協議会（概要）

1. 会議概要

日時：令和7年11月13日（木）18:30～20:15

場所：辰野町役場 大会議室

2. 教育長あいさつ

- ・国の動向が大きく転換し、給特法改正によって教員の働き方改革は待ったなしの状況にある。県内でも地域移行に向けた議論が急速に進んでおり、辰野町にできる地域展開を考えていく。
- ・中学校では2年生に主力が移行する時期で、来年度の活動方針や保護者説明、小学生への周知も欠かせない。
- ・インフルエンザの流行が続いており、体調管理への注意を求めた。

3. 推進計画進捗状況

（1）辰野町推進計画の基本方針

- ・令和8年度末を目途に休日の部活動の地域展開を段階的に目指す。
- ・既存の地域団体を受け皿とし組織化をはかり、柔軟に対応しすすめる。
- ・移行困難な活動は学校で継続し、生徒の活動機会を保障。
- ・将来的には平日の活動も含め、全体として地域で担うことを目指す。
- ・費用は原則参加者負担とし、困難家庭には支援策を検討。

（2）給特法改正の影響

- ・教員の時間外在校等時間の月平均30時間を目指すことが法的に明文化。

（3）県内の状況

- ・77市町村中75が「令和8年度末までに休日部活を地域移行」を目標に掲げる。
- ・平日部活は19市町村が移行を目指し、中学校数の42.3%に及ぶ。

（4）国の最終とりまとめ

- ・令和8～13年度を「改革実行期間」と定め、休日部活動の原則すべての地域展開を目指す。大会のあり方や地域の受け皿体制整備も並行して進める。

（5）県の対応

- ・休日部活動の8年度末地域展開完了方針は維持。
- ・平日の活動をどう扱うかは今後さらに検討が必要。

（6）中体連大会の見通し

- ・北信越大会は令和11年度まで計画済（継続予定）。
- ・地区・南信大会など下部大会は開催「見込み」。不透明要素が大きい。

（7）11/25 辰野中学校部活動運営委員会への説明案

- ・社会全体が働き方改革へ移行していることを踏まえ、保護者の理解を求める構成。
- ・地域事業者視点では「学校部活動と同じ形の地域展開は不可能」。

- ・「地域の子どもは学校を含めた地域で育てる。」既存の枠組みからの脱却、新しい当たり前をつくる」。

(8) 地域クラブの運営主体案

- ・既存クラブに加え、公民館講座、スポーツ推進委員活用、新設クラブ、複数部活動の統合型クラブ、保護者主体の団体など、柔軟に考えていく。

4. 質疑・意見交換

<A 委員>

質問 1: 「部活動運営委員会（25 日開催）の構成と議論の内容は？」

質問 2: 「給特法の改正に関連する先生方の勤務に関する具体的な数字について、先生方の働き方改革が進んでいる中で、この内容が今さらのように感じる」

部活動の地域展開についての不安:先生たちの現状の理解はあるが、地域でどのように部活動を進めるか、具体的な方針が不明確であることを懸念。

現状の進捗が遅いと感じており、スピードを上げる必要があると強調。

<B 委員>質問 1 の回答

部活動運営委員会:中学校が主催する定例会議として年 2 回実施。

部活動の状況と今後の進め方について保護者代表、顧問職員、管理職が参加し、確認・検討を行う。11/25 は町教委の地域展開コーディネーターも参加し、地域の状況について説明予定。

<事務局>

給特法に関する認識の差:A 委員の「今さら」という意見に対して、認識の差があることを指摘。地域展開についての理解と進行が不足しているため、具体的な意見を求める説明を行った。

<教育長>

教員の負担が大きく、業務以外の部分（部活動）の負担が過重であることに対する歴史的背景を述べる。この状況はこれ以上続けられないと強調し、教員不足の問題が深刻化すると警告。

25 日の部活動運営委員会において、保護者にも責任を負わせる形で地域展開を進めるべきとの意見。保護者に対して「立ち上がってほしい」というメッセージ。

<C 委員>

A 委員の考えに賛同し、教師の負担について理解を示す。

自身の経験を通じて、教師たちの過重労働が続いている状況を強調。部活動が学校終業後、長時間続くことが普通だった過去を振り返る。

目標として「8 年度に休日の部活動を地域展開」とあるが、具体的には「辰野町として 8 年度末に完全移行することが目指されているのか？」と確認。また、平日の部活動移行のスケジュールについても質問し、ロードマップの作成が必要であると指摘。

中学校の顧問が、部活動の地域展開に対してどう考えているのか（部活動を続けたい

人、解放されたがっている人)についても知りたいと発言。

<教育長>

「8年度末までには休日の部活動の地域展開を完了する」との目標を確認。その後の平日についても、どのように進めるかは検討中である。

<事務局>

部活動の地域展開においては、まず『指導者の発掘』や『受益者負担』、国からの補助金など、解決しなければならない課題が多いと説明。

C委員から提案された「町役場職員が顧問を務める」アイディアに対して、教育長は長野県千曲市が導入を検討していた事例を紹介し、辰野町でも検討が必要であるとコメント。

町役場の職員が顧問を務めることで、教師の負担を軽減する提案。専門的な知識を持った職員が活動をサポートすることで、部活動がより安定して運営できるが、職員の勤務時間や報酬の扱いについては、現行の規定に従い調整が必要であると認識。

公務員の副業としての参加については、総務省が「地域社会貢献活動の参加」を認める方向に動いているが、依然としてハードルが高いという現実がある。

また、町職員が部活動の顧問をする際の報酬問題についても触れ、持続可能な仕組み作りが必要だと説明。

<C委員>

指導者の確保が遅れると、地域展開が進まないとの懸念。指導者を後から見つけるよりも、まずスタートを切ることが重要だと指摘。保護者のネットワークを活用して指導者を見つける提案。

<教育長>

指導者を見つけるには、保護者のネットワークが学校のものよりも強力だと認識。25日の会議では、保護者にも協力をお願いし、保護者のつながりを活かす方向で進める。

<事務局>

成功事例の紹介:岐阜県美濃市が完全地域展開を実現した事例を紹介。保護者が主導し、部活動の指導者を見つけ、地域で活動している状況を参考にしている。

辰野中学校では、今後の会議で保護者代表と教員と一緒に地域展開について議論する予定。

<E委員>

部活動の最終的な形がどうなるのか、具体的なイメージが欲しいとの意見。例えば、平日は学校で部活動があり、土日だけ地域のクラブチームが担当するという形が現実的ではないと述べる。勝ちを目指す子どもと、楽しむ活動を重視する子どもがいることから、部活動のあり方そのものが多様化する必要性を訴える。

<教育長>

児童・生徒数の減少や多様化に対応するため、部活動のあり方が変わるべきだと認識。

地域クラブとの連携を強化し、子どもたちのニーズに合わせた活動の保障を目指す。

<F 委員>

海外での部活動の地域展開について、成功事例があれば知りたいと提案。特に東洋圏では中学や高校で地域展開が進んでいる事例があるかもしれないと関心を示す。

また、吹奏楽部の活動に関して、保護者の負担が非常に大きいことを指摘。具体的には、大型バスの手配にかかる 40 万円近い費用が家計に大きな負担をかけており、町からの補助が求められている。

<教育長>

海外、特にヨーロッパやアメリカでは、教師の仕事は授業後に終了するため、部活動に関しては地域のクラブチームなどが主導している場合が多いことを紹介。日本でも部活動の地域展開において「受益者負担」が言及されているが、実際にはその矛盾が問題になっている。

部活動にかかる費用、特に大会参加費用については、町からの補助金がほとんどない現実を説明。保護者負担の大きさが問題となっており、これは今後の課題として残る。

<G 委員>

音楽協会の立場として、地域のスポーツ活動に比べて、音楽関連の指導者が不足しているという問題提起。指導者の探索として、辰野町内で金管バンドの指導者を探し、小学校から依頼があったが、指導者の都合が合わないため、地域や学校で指導する難しさを説明。

協力体制の課題として、休日や平日のイベントに対する指導者の割り当てが難しく、仕事や役員の負担が増えていることに言及。

地域での協力強化を提案、他地域との連携や、指導者名簿の作成、行政による情報交換・支援を求めた。

予算の確保に関して、来年度の予算において、補助金や保険の問題も含めて議論を進める必要性を強調。定期的な指導の難しさを強調し、より具体的な支援体制とルールが整えば協力しやすくなる。

<教育長>

G 委員の意見に賛同し、広域的な指導者の確保が地域だけでは難しいことに同意。

広域連携の試みとして、辰野町、箕輪町、南箕輪町の北部 3 町村が協力し、外部指導者を招聘する方向で合意済み。課題として、広域での活動を進める際に、実際の輸送や運営に関する新たな問題が発生する可能性を指摘。

予算確保の重要性を強調し、来年度の予算に必要な費用を反映させることが急務である。

<A 委員>

日本とヨーロッパのスポーツ文化の違いに言及。日本は部活動が中心で、トーナメント方式が主流だが、ヨーロッパでは地域のクラブに所属し、子どもも大人も一緒に活

動する文化がある。地域クラブの役割として、ヨーロッパのクラブをモデルに、地域クラブの展開を進めるべきだと提案。

地域スポーツ活動の進め方として、まずは土日で地域展開を行い、実際の運営で得た課題や改善点を平日活動に反映させる二段階での展開を提案。

地域活動の柔軟性を重視し、子どもたちが自由に選べる環境を作るべき。

<事務局>

A 委員の意見に同意し、総合型地域スポーツクラブの理念に基づいて活動する方向性を示した。多世代・多種目の地域展開を目指す、実際には少子化などの問題で、現在の形で十分に進められていない点を指摘。世代間のつながりを強化し、町内でのスポーツ活動をより多様化させる方向で検討を進めていくことを表明。

<教育長>

本日出された意見を整理し、次回の会議に繋げていくことを確認。

<E 委員>

方向性の明確化を求め、部活動の進行にあたっては「どのような形を目指すか」を明確にしておくことが重要だと述べた。

地域活動の選択肢の提供として、子どもたちや家庭が選択肢を持てるような説明が必要だと強調。現実的な制約を理解した上で、保護者や地域の期待をうまく調整することが大切。

<H 委員>

子どもたちの目指す目標に応じた対応として、プロを目指す、勝ちにこだわる、楽しむという 3 つのカテゴリーに分けて、それぞれに適切なアプローチを取るべきだと提案。

指導者の多様性として、教育免許を持たない人々も指導者として活躍できる場を提供することが必要。

地域の指導者の協力を求め、特に退職した教員などの協力を得ることを提案。

事務局の役割の明確化を求め、部活動の運営をスムーズに進めるためには、事務局の適切な設置が必要であると強調。

部活動の評価方法について疑問を呈し、部活動移行が学校や教師にどのような影響を与えるのか、その評価方法を明確にする必要性を指摘。

【参考意見】

<出席者 I>

実情の共有の重要性を指摘。現在、部活動の移行について長野県内の他市町村で実施されている事例や進捗についての情報が不足している。事例の共有を提案。地域ごとの取り組みや問題点を互いに知ること、より前向きな議論が進む。

辰野町の状況を周知し、今後の進行状況を共有することが重要だと強調。

<出席者 J>

地域指導者の確保と予算問題が地域展開での課題とされ、具体的な予算や指導者不足に関する状況を確認したい。

指導者バンクの活用について質問。町内で正式に指導者を募集しているのか、また各スポーツごとに予算や指導者を確保するためにどのような計画があるのか確認したい。詳細な調査と検証を求め、クラブごとに指導者と予算を具体的に見積もる必要があると指摘。

<事務局>

指導者バンクについて、県のシステムがあるが、現状では推薦や情報が上がっていない。周知が不足している可能性がある。

予算の問題について、現行の部費や保護者会費に依存しているが、新しい枠組みの中で17のクラブがどれくらいの費用を必要とするかは不確定であり、今後さらに調査が必要。

リュシオスポーツクラブのノウハウを活用する方向で調整しているが、具体的な実行計画のすり合わせができていないのが現状。今後委員会で協力をお願いしたい。

<出席者 K>

保護者と子どもたちの不安を指摘。部活動の移行に関する情報が不足しており、保護者がどのような形で部活動が行われるのか分かっていない状況に困っている。

情報提供の不足に対し、保護者会から定期的に情報を提供してもらえよう、教育委員会に求めた。特に、来年の新生に向けた明確な情報が必要だと強調。

<教育長>

部活動の継続保障について、文言にある「中学生の部活動の活動の継続保障」を重視し、保護者や地域への情報提供を今後強化していく必要がある。

情報不足の改善について、今後は教育委員会と中学校と協力し、保護者への情報共有を進めることが重要だと認識している。

これらの意見を通して、部活動の地域展開における指導者確保や予算管理の課題が強調され、情報提供の不足に対する不安も共有。次回に向けた具体的な調整や実行計画のすり合わせが必要であることを確認。

5. その他

6. 閉会